

令和4年2月定例会 人材育成・文化・スポーツ振興特別委員会の概要

日時 令和 4年 3月 8日（火） 開会 午前10時 1分
閉会 午前11時26分

場所 第1委員会室

出席委員 武内政文委員長
松澤正副委員長
渡辺大委員、美田宗亮委員、立石泰広委員、諸井真英委員、宮崎栄治郎委員、
江原久美子委員、鈴木正人委員、白根大輔委員、塩野正行委員、中川浩委員
※オンライン出席 渡辺大委員、宮崎栄治郎委員、白根大輔委員

欠席委員 なし

説明者 [教育局]
高田直芳教育長、萩原由浩副教育長、
佐藤裕之教育総務部長、日吉亨県立学校部長、石井宏明市町村支援部長、
石川薫県立学校部副部長、古垣玲市町村支援部副部長、
加藤健次教育政策課長、関根章雄財務課長、
竹井彰彦参事兼特別支援教育課長、渡辺洋平義務教育指導課長、
小谷野幸也生涯学習推進課長、衛藤一憲文化資源課長
[県民生活部]
市川善一県民生活部副部長、加来卓三文化振興課長
[福祉部]
小澤圭佑障害者福祉推進課主幹
[産業労働部]
林田泰明観光課副課長

会議に付した事件
文化の振興について

渡辺委員

- 1 埼玉WABI SABI大祭典を5年間実施したがどのような成果があったか。また、今年度で終了ということだが、来年度以降はどのようにするのか、計画を伺う。
- 2 主要施策4の「2文化資源の魅力を活用した取組」で、謎解きゲームを地域と連携して実施したとなっているが、これにより、どのような地域活性化の効果があったのか。

文化振興課長

- 1 成果は大きく3点あった。まず1点目は、県民の皆様には地元だけでなく県内の他の地域の伝統芸能に触れる機会を作ることができた。県外の皆様には本県の文化の多様性をアピールできた。2点目は、伝統芸能をはじめとした文化団体に対し、地元だけではない広く発表の場を作れた。特に、コロナ禍で地域のお祭りが中止になったケースが多々あり、団体からは「埼玉WABI SABI大祭典が唯一の発表の機会になり、ありがたかった」との声をいただいた。3点目は、県内の伝統芸能団体と県、あるいは団体同士の協力関係、ネットワークができた。また、来年度以降の計画については、大きく二つ考えている。まず、引き続き本県の和 문화、伝統芸能の魅力を発信するため、大型商業施設等を借り、魅力発信のイベントやワークショップを開催したいと考えている。今まで伝統芸能に関心なかった方に新たなファンになってもらいたいと考えている。次に、伝統芸能の団体を支援する取組である。団体の多くが高齢化や担い手不足といった問題を抱えている。そこで、企業等のサポーター制度を創設して、お祭り等の行事への参加や鑑賞、社員への広報、PRなど、様々な方法で伝統芸能を支える仕組みを作りたいと考えている。団体内部だけで支えるのではなく、社会全体で応援する気運を高めて存続に貢献したいと考えている。

文化資源課長

- 2 謎解きゲームは、「古墳を活かす、古墳でつながる！文化財活用プロジェクト」のプログラムの一つとして、地域に新たな客層を呼び込むとともに、地域の歴史文化の再認識・再評価を促すことを目的として実施したものである。新たな客層ということでは、謎解きゲームという新たな手法を採ることにより、歴史文化に関心の薄いファミリー層など若い世代の参加を促すとともに、参加者が地元の商店に足を運ぶよう、市内12か所の商店に謎を解くためのヒントを掲載した。その結果、実施期間中、謎解きシートを手にした多くの人が市内を周遊する姿が見受けられ、協力した商店からも、新たな集客に効果があったとの声をもらっている。また、アンケートでは、謎解きゲームの全問正解者数は910名となり、その内の約25パーセントが行田市を初めて訪問したという結果であった。また、95パーセントが、謎解きゲームを通して行田市の歴史や文化への興味が高まったと回答があった。このように、地域に新たな客層を呼び込むとともに、地域住民にとっても、ゲームへの参加や、地域以外の方からの注目度を実感することを通して、地域の魅力の再認識や地域活性化につながる効果があったものと考えている。

美田委員

- 1 伝統芸能サポートの助成交付件数が4件というのは少ないのではないか。
- 2 主要施策1の3「(2)NHK大河ドラマ特別展『青天を衝け～渋沢栄一のまなざし～』」

について、この特別展は私も観に行ったが、そのときは多くの来館者がいたので、埼玉県にとって、非常に良いアピールになったと思う。知事の提案説明でも、2年連続で本県ゆかりの人物が大河ドラマで取り上げられ、チャンスを生かしていきたいという旨の発言があった。是非、現在、高視聴率を続けている「鎌倉殿の13人」についても実施してもらいたいと思うが、どうか。「青天を衝け」は3月から始めていたので、行うのであれば早期に実施すべきと考えるがどうか。

- 3 主要施策2の5「市町村による計画的な文化財の保存・活用の支援」について、文化財保存活用地域計画を作成して文化庁長官により認定されるとのことだが、これによって市町村にどのようなメリットがあるのか。

文化振興課長

- 1 少ない件数と認識している。令和2年度は30件、令和元年度は16件、平成30年度は22件と、これまでと比較しても非常に少ない状況であった。コロナの影響で地元のお祭りなどが中止となり、そのための練習もなくなるなど活動自体が休止になったため、用具等の修繕や更新の必要がなかったと聞いている。例年、この助成金は人気があるため、今年度は追加募集も行い、利用が増えるよう努力してきたが、件数は減少となってしまった。しかし、コロナの状況が落ち着けば、申請が増えてくると考えている。

文化資源課長

- 2 NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」に関連した教育関係の取組についてであるが、県立博物館である嵐山史跡の博物館は、ドラマに登場する畠山重忠ゆかりの地、菅谷館跡に立つ博物館であり、現在、「北武蔵の鎌倉武士」と題し、埼玉県内にある鎌倉武士の館跡や鎌倉武士ゆかりの寺院の写真パネルの紹介や鎌倉時代の遺跡の出土品を展示している。また、来年度は、比企地域の市町村と連携し、大河ドラマに関連した内容の巡回展も計画している。また、10月からは、鎌倉時代の武蔵武士に関連した企画展の開催を嵐山史跡の博物館で予定している。大河ドラマで本県ゆかりの人物が2年連続で取り上げられるということは、埼玉の歴史や文化財などの魅力を県内外に発信する好機であると考えている。教育関係としては、博物館施設において、学術的な観点から鎌倉時代の歴史・人物・文化等を紹介していくとともに、広くPRにも努め、地域に多くの方に足を運んでいただけるよう、関係機関とも連携しながら取り組んでいく。
- 3 文化財保存活用地域計画は、市町村における文化財の保存活用に関する基本計画ということになるため、各市町村における総合振興計画などと整合のある計画を作成することで、市町村全体、部局連携により計画的な文化財の保存活用を進めることができる。また、地域の特徴を生かした、文化財を核とした地域振興に資するとともに、確実な文化財の継承につなげることが期待できる。そのほかにも、文化財活用のための情報コンテンツの作成などの取組に対して、国庫補助金の補助率の加算といった優遇措置が受けられるなどのメリットもある。

観光課副課長

- 2 観光振興の分野においても、2年連続で大河ドラマに取り上げられるという大きなチャンスを逃さず、生かしていきたいと考えている。具体的には、嵐山の史跡の博物館と連携し、「鎌倉殿の13人」をテーマとしたウェブ版の旅行情報誌による情報発信や、ゆかりの地を巡るスタンプラリーなどの実施を予定している。さらに、道路事業者、鉄道事業者などの交通事業者、関係市町村と連携し、周辺の観光スポットの情報を発信して

いく。

江原委員

埼玉WABI SABI大祭典について、発表の場を失った中で伝統芸能を中心に発信できたことや県外から来てくれたとの答弁があったが、それは当たり前のことだと思う。去年と今年と同じ状況下で実施したと思うが、その比較はどのようになっているか。動画の視聴件数も含めて伺う。

文化振興課長

昨年度はコロナの影響によりオンラインで開催した。今年度は会場に入場者を入れての開催に加えライブ配信も行った。一概に比較はできないが、今年度は来場者の生の声を伺うことができたことが違う点である。

江原委員

当然、去年と今年、さらに一昨年では違う。予算額も全く変わっている。以前は今年度の半分の予算で実施していた。コロナ前は来場者が延べ100,000人との報告も受けている。オンライン開催でないときに100,000人が来場した。今年は来場者が10,000人で動画視聴が27,120回である。去年、オンラインで開催した数値指標は調べていないのか。

文化振興課長

埼玉WABI SABI大祭典は来場者を入れて開催することができず、天気に恵まれないことで中止になったこともある。平成30年度は来場者104,000人であり、令和2年度のオンライン開催の動画視聴数は43,800回であった。

江原委員

そうであるなら、去年と今年の何らかの比較ができると思う。昨年度のオンライン開催で43,800回、今年は来場者と合わせての実施なので、それを含めてどういう評価か、検証してもらいたい。高校生が発表する機会がないということで「和」の動画祭を行って、埼玉WABI SABI大祭典の中で紹介してもらったが、この動画を見ることはできるのか。

文化振興課長

高校生の動画はYouTubeで引き続きアーカイブとして配信している。

中川委員

- 1 障害者アートについて、特別支援学級や特別支援学校の生徒が増えている中では、どのようにしてアートで食べられるようにするかとということが非常に重要だと思う。この取組はオンラインとあるが、県立近代美術館のショップには、障害者アートの商品はあるのか。また、県庁第二庁舎の売店「かつぽ」には、障害者アートの作品はあるのか。
- 2 障害者アートを推進している団体からは、障害者が実習をする場が限られているという指摘がある。来年度以降、障害者アートを研修する機会は増やすのか。
- 3 近藤次期芸術監督はパフォーマンスの方だが、障害者アートの分野も尽力いただく予定なのか。多岐にわたって障害者と接しているため、このようなすばらしい人材をパフ

パフォーマンスだけに限定するのは、非常にもったいないと思うが、どうか。

文化資源課長

- 1 近代美術館のミュージアムショップでは、川越市の福祉作業所で作成されたマグネットや子供用の木の玩具などをグッズとして販売しているが、障害者アート関係のグッズは販売していない。

障害者福祉推進課主幹

- 1 「かつぽ」に置いてある商品の中に、絵画などの障害者アートの作品そのものはないが、障害者が描いた絵が載っているポストカードを販売している。また、障害者アートというよりは製品になるが、手工芸品も販売している。
- 2 音楽やダンスのワークショップを行っており、その中で障害者の芸術の体験の機会を設け、参加者を募っている。
- 3 埼玉県障害者支援計画では、障害のある方もない方も共に活躍できる共生社会の実現を目標にしている。計画の目標である共生社会の実現に向けて、近藤次期芸術監督には、平成21年度のハンドルズの創設期から御協力いただき、個性豊かで魅力あふれるダンス公演を演出されており、多くの方から大変な好評をいただいている。近藤次期芸術監督は計画の実現に向けて大きな成果を上げていただいております、今後も、事業のなかで、助言をいただく機会があれば、計画の策定の参考にしていきたいと考えている。

中川委員

- 1 こちらは、埼玉県内の障害者が作成したものである。「海のない街で暮らしています」というのが埼玉県として映えるのではないかなと思う。先ほど伺ったのは、我々は学校の生徒会ではないので、文化祭のみをやっているわけにはいかない。障害者が、卒業後、生活できるようにしていくのが我々の仕事である。再度、販路をどのように確保するつもりなのか伺う。商品が置かれることが増えていかないと、結局、障害者がアートで食べていくことが増えていかないと。特別支援学級の生徒の数の増え方からすれば、今までの答弁は、一部の対象にしかならないと思うが、どうか。
- 2 これまで、障害者アートについて近藤次期芸術監督から指導があったことはあるのか。

文化資源課長

- 1 現在はアート関係のグッズは取り扱っていない。近代美術館のミュージアムショップは県が直接運営しているのではなく、友の会という団体が運営しているため、物品の販売が可能かどうかについて、団体に確認する。

障害者福祉推進課主幹

- 1 障害者アートのより一層の振興を図っていくため、経済的支援が必要な方もいると思う。そこで、県では民間企業を訪問して、障害者アートの購入やデザイン利用などの働き掛けを行っているところである。障害者アートを活用したカレンダーやうちわなど好評な事例を紹介したところ、新たに関心を持った企業もあるため、こうした企業を今後も増やしていきたいと考えている。また、今後、成功事例があった場合は、ほかの企業が取り組む際の参考となるよう、作品の展示や活用方法などを、県のホームページで発信していきたいと考えている。
- 2 近藤次期芸術監督には、障害者の舞台芸術表現として、ダンス公演やダンスのワーク

ショップといった、ダンスを通じた指導をしていただいている。

中川委員

アニエス・ベーというフランスのブランドでは、障害者アートをブランド化している。また、パリでは障害者アートがとても高い値段で取引されている。奈良県では、デパートで障害者ということを出さずに作品を十数年前から販売している。そこで、SDGsを標榜している埼玉県庁であるので、企業の販路を今後どのように増やしていく計画なのか。

障害者福祉推進課主幹

障害者アートによる経済的な自立に向けた企業への取組については、まだ始まったところであるため、成果は今後出てくると考えている。今後、成果が出るように取り組んでいく。また、障害者アートの利活用を進めるために、どのような方策が考えられるか、検討していく。

白根委員

渋沢栄一翁をはじめとした三偉人のPRは紙媒体が多いようだが、対象の年齢層をどのように設定しているのか。また、はとバスツアーは緊急事態宣言などコロナの影響を受けていると思うが、実績はどうか。

観光課副課長

紙媒体については、駅やイベント等で配布するため幅広い年齢層を対象として考えている。その中でもなるべく若年層にも関心をもってもらいたいので、フリーペーパーは若い方を意識して作成している。また、はとバスツアーについては、コロナの影響を受け予定していた本数は催行できず、3回の実施にとどまった。

白根委員

コロナで事業実施が難しい時期だったと思うが、若年層に関心をもってもらいたいのであれば、SNSなど紙に頼らないPRも数多くあると思う。デジタルメディアを活用するという発想はなかったのか。

観光課副課長

フリーペーパーについては電子版も作成し、紙だけでなくデジタルも活用しながらPRを実施した。

鈴木委員

- 1 県立博物館施設における企画展等の開催について、歴史と民俗の博物館から川の博物館まで8施設について記載があるが、企画展に合わせて、学生の入場について、当然促していると思うが、企画展等を見てもらおうとどのように努力してきたのか。また、この企画展等を見た学生の感想並びにどのような効果があったと考えているのか。
- 2 埼玉WABI SABI大祭典2021について、盆栽、書道等の体験コーナーがあったが、体験コーナーを通じて、実際に盆栽、書道、和楽器などを始めたケースはあったのか。
- 3 高校生の「和」動画祭について、発表する機会を失った高校生の投稿動画を公式サイトで公開しているが、平均動画再生回数は100回程度との感想を持っている。学校の

生徒だけでも数百人いるのに対し、この動画再生回数についてどのように考えているか。もう少しPRができたのではないかと思うが、どうか。

文化資源課長

- 1 博物館における学生向けの取組状況については、博物館と学校との連携ということでは、博物館・美術館において、学校団体の受入れ等を行って、展示の見学や体験活動を実施しているところである。現在は、コロナ禍の影響で事業が進んでいない状況もある。大人数での見学は難しい状況であるので、博物館の職員が学校の依頼に応じて、学校に出向き、出前授業を実施するなど、アウトリーチ活動にもしっかりと取り組んでいる。出前授業の実績としては、4月から1月までの間で、令和3年度は157校で前年度に比べて31校の増、参加生徒数については9,363人と、昨年度よりも1,000人以上の増となっている。また、数は少ないが学校団体の来館もあり、生徒からは、コロナの中でも展示の観覧や体験活動ができてよかったという感想をもらっている。

文化振興課長

- 2 体験コーナーを通じて本格的に始めたケースは把握していないが、会場でアンケートを取っている。そのアンケートによると、「子供に太鼓をやらせたいと思った」、「盆栽に興味を持った」という具体的な意見をいただいている。また、文化芸術に取り組みたいと思ったかという項目では、63.3パーセントの方から今後取り組みたいという意見をいただいた。高校生の動画について、事前に一所懸命PRしたが、ばらつきがあるのは事実である。しかし、引き続き見られる状況であるので、PRをしっかりと行っていきたい。

鈴木委員

- 1 県立博物館施設における企画展等の開催について、実際には学生の来場は少ないとのことだった。その代わりに出前授業を行っており、31校で1,000人以上増えているので、そういった意味では、企画展等の代替は行っているということだった。私には小学5年生の子供がおり、コロナ禍ではあるが宿泊学習や社会科見学に行っている。そうであるならば、県立博物館施設における企画展等が開催されたときに、コロナ禍なので余り宣伝しないというのはいかがなものか。出前授業もすばらしいが、せっかくの企画展が、学生に見てもらえないという状況はいかがなものかと思うし、そこは遠慮するところではないと思うが、どうか。
- 2 埼玉WABI SABI大祭典をきっかけに、盆栽、書道、和楽器などを始めたケースは把握していないということである。アンケートでは63.3パーセントの方が今後取り組みたいとの回答があり、良いシグナルであるが、これを生かしたフォローがあるか。
- 3 高校生の「和」動画祭について、ホームページから接続しにくかったり、YouTubeで確認しても検索しにくかったりする。埼玉WABI SABI大祭典が終わった後のフォローが足りないのではないかと思うが、その点について今後どうするのか。

文化資源課長

- 1 先ほど、大人数になる学校団体についてということですが、博物館として学校団体を全く受入れられないというのではなく、学校との協議の上で中止になっているケースが多いということである。通常の新聞報道をはじめ、広報等のPRはしっかりと行っており、数として把握はしていないが、学生にも来館いただいているものと考えている。

また、コロナ禍において学生に来館してもらう工夫としては、例えば歴史と民俗の博物館において、企画展や特別展の中で、通常は展示室で行っている展示解説について、密にならないように講堂で「見どころ解説」として、時間も15分に短縮した方法で実施した。体験事業としては、密にならない自由参加型のイベントとして、館内に隠された鯉のぼりを探しながらクイズに解答する「こいのぼりを探せ」や、夏休み期間中は絵馬を作成して飾るといった取組なども実施した。今後も引き続き、感染症対策を徹底しながら、学生が来館し、楽しんでもらえるような工夫をしていく。

文化振興課長

2 体験会后フォローは大事だと認識している。例えば、SNSで教室の案内や体験ができることを発信するのも一つの方法だと思う。そういったフォローの仕方を考えていく。また、高校生の「和」動画については、検索しやすい形になるよう編集していく。

鈴木委員

今後、SNSの発信でフォローすることだが、アンケートの回答があった前向きな人たちに対してフォローするのか。ホームページに掲載するだけで終わってしまうのか。その点について伺う。

文化振興課長

アンケートは無記名であるため、難しい面もある。基本的には幅広くフォローしたいと思っているが、やはり意識のある方が反応されると思うので、そういった方に反応してもらえそうなSNSの工夫をしていく。